

特集1

伊達政宗公生誕450年記念

仙台七夕まつり 8月6・7・8日開催!

今年も仙台七夕まつりの季節がやってきます。
 伝統の七つ飾りに願いを込めて、
 市内各地では本番に向けた
 準備も佳境といったところ。
 今号では、仙台七夕の歴史と、
 今年のまつりの見どころを紹介します。

写真提供：仙台観光国際協会

伊達政宗公も 思いを寄せた七夕行事

毎年8月6日、7日、8日、仙台の街には趣向を凝らした飾りが立ち並び、200万人もの人出でにぎわいます。

現在の七夕行事の始まりは、7月7日の夜、織姫と彦星が一年に一度再会するという星祭り伝説に、「乞巧奠(きっこうでん)」という手芸や裁縫の上達を願う儀式が混ざり合ったものと言われていいます。古くは宮中行事として行われていましたが、江戸時代、幕府が五節句を制定したことで武家でも重んじられるようになり、次第に民衆の間でも行われるようになりました。

仙台での七夕はというと、一説には、今年、生誕450年の節目を迎えられる仙台藩祖・伊達政宗公が奨励したと言われており、政宗公が詠んだ七夕に関する和歌も8首残されています。

寛永4年(1627年)

まれにあふ、こよひはいかに 七夕の
そらさへはるる あまの川かせ

七夕は としに「たひ あふときんく
さりてかへらぬ 人のゆくすえ

寛永6年(1629年)

幾とせか 心かはらて 七夕の
逢夜いかなる 契なるらん

七夕の 逢夜ながらも 暁の
別はいかに 初秋の空

年不詳

あひみんと 待こしけふの 夕たちに
天の川せや せきとなるらし

雲きりは たちへたつとも 久かたの
あまの川せに せきはあらしな

なげきこし人のわかれに くらふれば
ほしのちきりそ うらやまれぬる

政宗公の時世から時代は下りますが、江戸時代に行われていた七夕行事がどのようなものだったかと言いつつ、明治6年に伊達家13代当主・伊達慶邦公が著した「やくたい草」という書物には次のように書かれています。

「七月七日を七夕といひて、六日の夕より七夕の古歌を、五色の色紙短冊に書き、又うらわ、扇の類おもひおもひに女子供のつくりもの、ささ竹にむすひつけて、軒端にたてて二星をまつりて、其笹を八日の朝には、かならず川に流す事は、いつとも同じならわし也。仙台にては六日の晩にこのまつりをして、七日の暁には評定橋等より笹を流す風習也。」

これによると、6日の夕方から、七夕の古歌を五色の短冊に書き、さまざまの飾りを笹竹に結び付けて、織姫星と彦星の二星をまつっていたようです。そして仙台では、その笹竹を、飾りを付けたまま、7日朝(時代によっては8日朝、広瀬川に流すのが習わしでした。

時代を超えて 受け継がれる仙台の七夕

こうした七夕行事は、明治維新の变革とともに全国的に衰微していきましただが、仙台ではその伝統が守り継がれ、まちづくりのシンボルとされてきました。

昭和2年、不景気を吹き飛ばそうと商家の有志達が仙台商人の心意気とばかりに、華やかな七夕飾りを復活。翌昭和3年には、東北産業博覧会の行事として仙台商工会議所と仙台協賛会との共同開催で「飾りつけコンクール」が催されています。その後、昭和21年、戦争で荒廃した街に立てられた52本の竹飾りは、当時の人々の涙を誘いました。

今日の仙台七夕は、世界一の紙と竹の祭典へと成長し、多くの観光客を魅了しています。その飾りには、仙台商人、そして地域に住む人々や子どもたちの思いが、今なお、きちんと込められています。今年の仙台七夕は、そんな人々の思いを感じながら、七夕見物をお楽しみください。

政宗公直筆の和歌

(仙台市博物館蔵)

まれにあふ、こよひはいかに 七夕の
そらさへはるる あまの川かせ

今夜は、年に一度この日だけ、牽牛と織女が逢うことを許された七夕の日であるので、二人の逢瀬が妨げられないように、天の川の岸辺には風が吹き、空も晴れることであらう。

題「七夕を」

雲きりは たちへたつとも 久かたの
あまの川せに せきはあらしな

(七夕は牽牛と織女が逢うことを許された年に一度の日であるので)地上の世界では雲や霧によつて牽牛と織女が出会うことを阻まれているように見え、ても、天空の世界ではこの日だけは)天の川の水位が上がって久しぶりに逢う二人が川を渡れなくするような堰ができることはないであろう。

きらきらと輝く時間を バトンタッチしていきたい



連坊商興会
会長
ちば たかお
千葉 隆夫 さん
株式会社菊地恵一商店 代表取締役

仙台七夕まつりといえば、伊達政宗公の時代から続く伝統と、他にはない豪華な笹飾りが特徴です。しかし、そうした豪華な飾りは中心商店街の方々にお任せをしまして、連坊商興会では、地域の町内会や子ども会が一体となって、連坊らしい七夕まつりを開催しようと、毎年、幼稚園の子どもから小・中学生、高校生、その親御さん、お年寄りまで、地域の皆さんの力を借りて取り組んでいます。今年は市内の専門学校に通う留学生も参加する予定になっているんですよ。これは初めての試みなので、地元祭りの祭りがコミュニケーションの場になる良い例になってくれることを願っています。

ただけでするので、中心部まで行きたいけれど、人混みに出るのが難しいという方に見ていただけるのも特徴だと思います。さらに七夕まつり期間中は、6日のみですけど、町内のお茶の先生の協力で、「チャリティー茶会」を行っています。最初はネパールの児童支援が目的でしたが、現在は震災遺児支援ということで継続しています。

私自身、幼い頃に大人たちと一緒に笹飾りをつくりました。記憶の中の飾りは、それはそれは立派で美しく、きらきらと輝いているんです。でも、今になって当時の写真を見ると、拍子抜けするほど普通なんですね(笑)。しかし、それも思い出いで、そんな思い出を今の子どもたちにもつづけてあげられたら...という思いで、このバトンタッチを続けていきたいと思っています。



作り手にも楽しい思い出になるよう地域ぐるみで七夕に取り組む連坊商興会。

子どもたちに支えられた、 素朴な七夕まつり



上杉中央商店会
厚生部長(七夕担当) 会長
すずき なかこ
鈴木 伸子 さん
京興服 社長
おいで こうたろう
生田 泉太郎 さん
有限会社おいで薬局 代表取締役

地域の活性化を目標として、この商店会を結成したのは平成2年。その目玉として、メインストリートである堤通に七夕の笹飾りを掲出しました。飾りは「エコ」を意識して、包装紙やチラシなどをつくりません。少々華やかさには欠けませんが、伝統の「七つ飾り」は必ず飾るようになっているんですよ。

飾りづくりは、商店会の会員だけでなく、町内会や地域の小学生とそのお母さんたち、上杉山通小学校のお父さん方、結成した「チャンネル」、老人介護福祉施設で働く方々と、毎年、本当にたくさんの皆さんが協力してくださいます。転勤による人の出入りが多い地域です

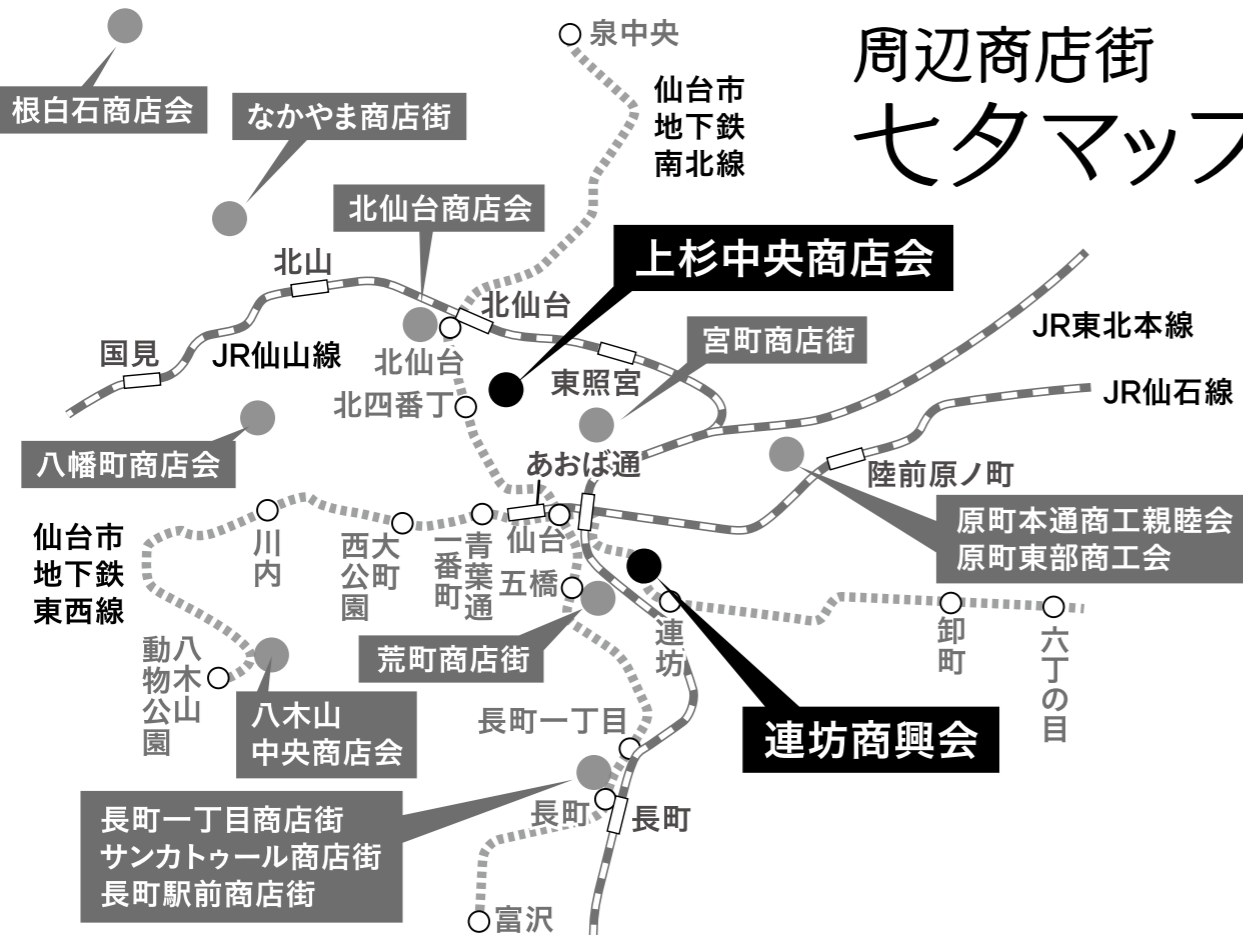
ので、毎年、七夕飾り講習会を開くなどして、つくり方などをしっかり継承しています。

実は私たちの七夕まつりで使う竹は自分たちで取ってくるのです。元会員の皆さんが竹林を所有して、その方のご厚意で、七夕まつり直前の日曜日に、みんなで取りに行きます。今年は、もっとたくさんの人とこの体験を共有しようとして実施する予定です。また、堤通を「七夕夢ロード」にしようと、手づくりの飾りだけでなく、地域の小学生たちにバトンタッチをしたいと思います。



手づくりの飾りが通りの向こうまで重なって見える上杉中央商店会。

周辺商店街 七夕マップ



歴史の重みと伝統を 色彩で表現しました



仙台コミュニケーション
アート専門学校
グラフィックデザイン専攻3年
こやま しょう
小山 翔 さん

仙台七夕まつりのポスターデザインは、学年問わず参加できる課題だったので、僕も興味があったので挑戦してみようと思ったのが応募したきっかけです。春休み期間に完成させました。先生にも相談しながら、試行錯誤して完成させたので、選んでいただけただけがとてうれしかったです。学生の作品が選ばれたのが初めてのことで、光栄に思います。

最初に、歴代のポスターをインターネットで検索してみました。その上で、これまでの雰囲気や逸話がないように、それでいて今年に伊達政宗公誕生450年という記念すべき年なので、伝統や歴史が感じられるデザインにしようと決めました。ベースになる色は落ち着いた緑色を選びました。仙台は「杜の都」とも呼ばれているので、ふさわしい色に思えたからです。そして吹き流しに見立てた流線形の帯の一本を金色にして華

ポスターのデザイナーインタビュー

やかさを出し、巻物のイメージで政宗公が詠んだ歌を盛り込みました。歴史の重みや伝統のあるお祭りであることは表現できたと思うのですが、落ち着きすぎてしまったので、ピンクをアクセントに使ったのが良かったかなと思います。

僕は岩手県北上市の出身で、専門学校入学と同時に仙台にきました。1年生の夏、仙台駅に飾られた七夕飾りを見たときは、その大きさ、吹き流しの長さ、どれをとっても想像以上の迫力と美しさにびっくりしました。同時に、地元の方で毎年行っていた七夕まつりで、小さいころに短冊に願いごとを書いて笹飾りに吊るしたことを思い出しました。僕がデザインしたポスターが一人でも多くの方の目にとまり、仙台七夕まつりに足を運んでくれるきっかけになったらうれしいです。



小山さんのポスターデザインは、今月号の表紙としても採用しています。

仙台七夕マップ

七夕飾り付け地区

七夕案内所

るーぶる仙台停留所

仙台七夕まつり協賛会では、毎年8月6日に笹飾りの審査を実施しています。夕方には公式HP上で結果発表がありますので、是非、金賞・銀賞・銅賞の飾りを探してみてください！

仙台七夕おまつり広場

仙台七夕花火祭

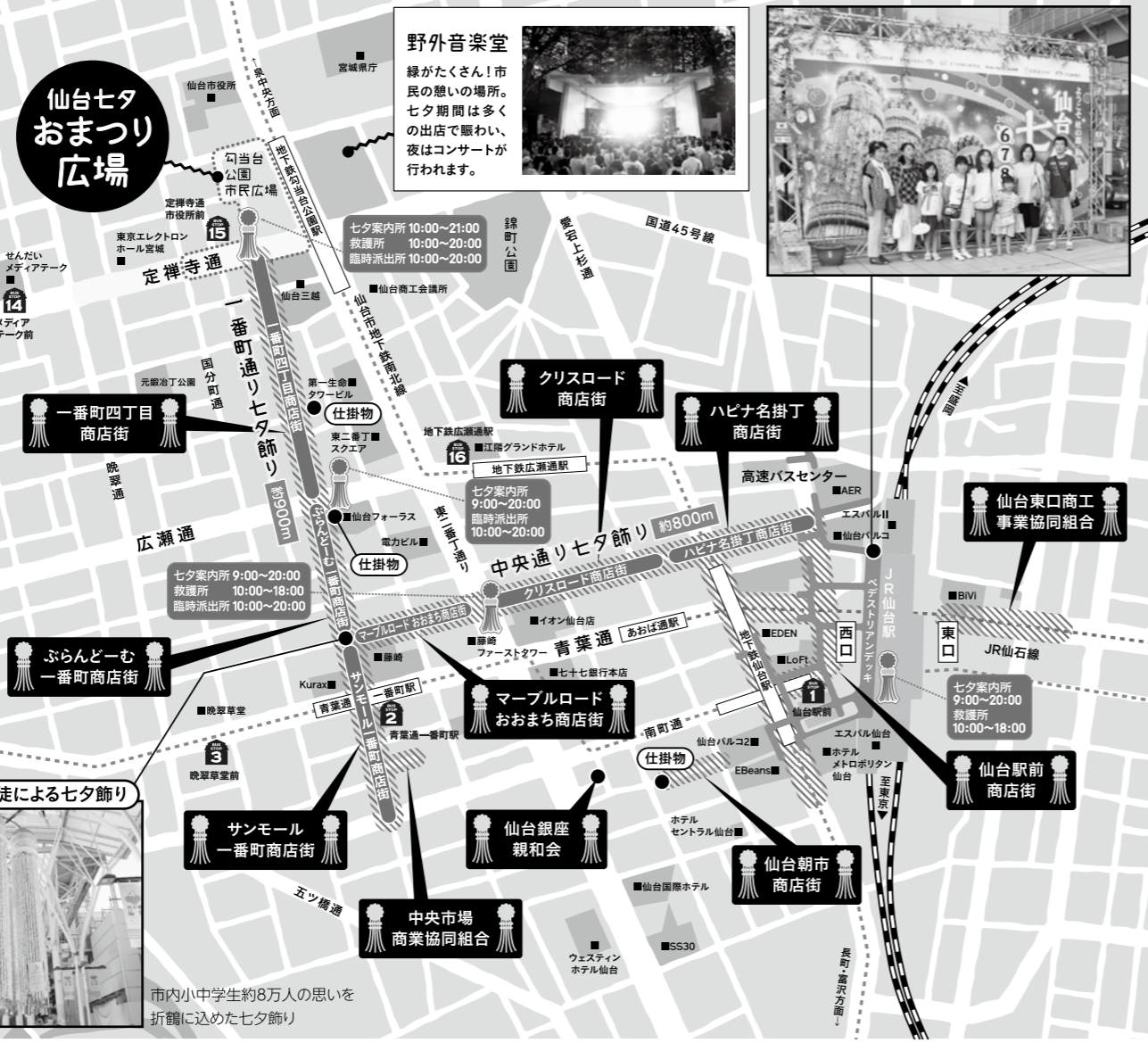


児童生徒による七夕飾り

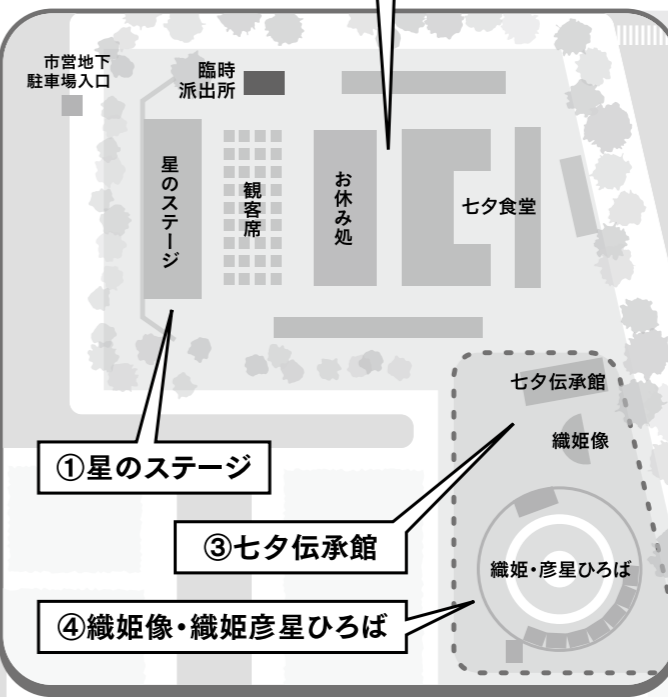
市内小中学生約8万人の思いを折籠に込めた七夕飾り

★記念撮影スポット

野外音楽堂
緑がたくさん！市民の憩いの場所。七夕期間は多くの出店で賑わい、夜はコンサートが行われます。



②お休み処・七夕食堂



①星のステージ

③七夕伝承館

④織姫像・織姫彦星ひろば

⑦恋の聖地!?
光のアーチでロマンチックな恋物語!

開催会場
勾当台公園市民広場・
定禅寺通グリーンベルト・
踊りましょう通り

仙台七夕おまつり広場



⑤大道芸&紙芝居

⑥踊りましょう通り

おまつり広場 イベント情報

①星のステージ

プロスポーツ団体のチアや、警察・自衛隊の音楽隊、仙台出身のシンガーなどがパフォーマンスを披露。

②お休み処・七夕食堂

伊達文化をイメージして装飾。ステージを見ながら「宮城の美味しいもの」をのんびり堪能。

③七夕伝承館

仙台七夕の歴史を写真でたどる。

○伊達政宗公の和歌の展示

生誕450年にちなみ、政宗公が詠んだとされる8首の和歌をパネルで紹介。

○ワンタッチ浴衣着用体験

簡単に着用できる浴衣で記念撮影。

④織姫像・織姫彦星ひろば

ハートの短冊に思いを込めれば恋の願いが叶うかも？七夕飾り作り体験や、織姫・彦星Barなど、大人から子どもまで楽しめる空間。

⑤大道芸&紙芝居

仙台市中心部商店街で活躍する「まちくる仙台パフォーマーズ」の実演と七夕の歴史や仙台の昔を伝える紙芝居でにぎわいづくり。

⑥踊りましょう通り

やりましょう盆踊りとコラボレーション。巨大櫓も登場!

⑦恋の聖地!?光のアーチでロマンチックな恋物語!

織姫アーチ(ピンクのハート)と彦星アーチ(ブルーのハート)は絶好の撮影スポット。全国からの短冊や折り鶴や仙台七夕をイメージさせる切り絵アートを置き、竹明かりワークショップも昨年に続き実施。

なんとも見どころ!

生誕450年統一札

金・銀・銅賞などの個人賞札に加え、伊達政宗公生誕450年を記念して、市内の七夕飾りに統一札を掲出。

仙台七夕おもてなし隊

ボランティアガイドが、仙台駅や街角で、仙台七夕の説明や記念撮影のお手伝いなど七夕見物をサポート。

仙台七夕花火祭

●8月5日(土)
19時〜20時30分
1万6000発の花火が七夕前夜を華麗に彩る(西公園付近一帯)。



瑞鳳殿七夕ナイト

●8月6日(日)〜8日(火)
18時〜21時
伊達政宗公の霊廟を幻想的にライトアップ。



仙台七夕まつりの最新情報は「チラシから」

【公式HP】
<http://www.sendaitanabata.com/>

【フェイスブック】
<https://www.facebook.com/sendaitanabatamatsuri>

お問い合わせは

仙台七夕まつり協賛会事務局・仙台商工会議所 まで

TEL 022-1265-1818

